

カキ設置によるノリ養殖漁場環境改善

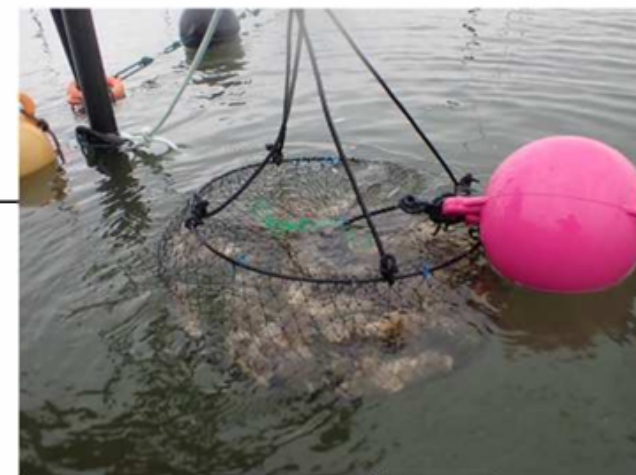
佐賀県

カキ設置によるノリ色落ち対策

佐賀県有明水産振興センター

佐賀県では、令和3年度まで19年連続で養殖ノリの生産量・生産額日本一を続けていたが、令和4年度漁期は、色落ち被害が秋芽網期に続き、冷凍網期でも懸念される状況であったことから、赤潮プランクトンを捕食する効果が高いカキ（養殖マガキ）を県内ノリ漁場全域に設置する緊急対策を実施

- ・令和4年度、5年度漁期の2か年で実施
- ・網かごに5kgずつ収容し、漁協全15支所に配布、各支所ノリ養殖漁場の任意の場所で表層に設置
- ・設置期間にカキのへい死はなく、漁期終了後は各地先のカキ礁付近へ散布放流
- ・養殖マガキは、佐賀玄海漁協より購入
- ・域外からの外来種移入リスク対応のため、設置前に24h以上の殺菌海水浸漬と表面の付着物除去を実施



～カキの設置によるノリ色落ち軽減効果のイメージ～



カキ設置によるノリ養殖漁場環境改善

目的

ノリ養殖が非常に厳しい状況にある有明海において、ノリ色落ち被害の軽減を図るため、プランクトンを捕食するカキをノリ養殖漁場に垂下し、その効果検証を行う。

事業実施内容

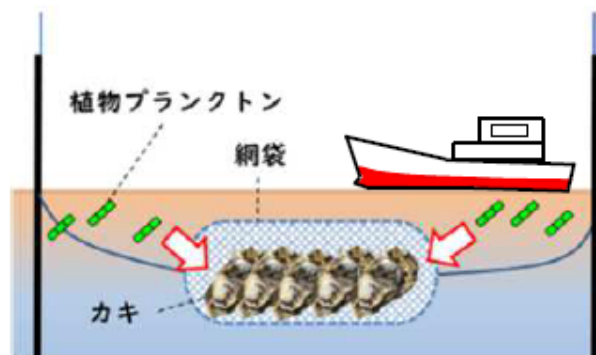
① 二枚貝設置

有明海ノリ養殖漁場に二枚貝を垂下（40t）



② 設置個所周辺調査

二枚貝設置箇所周辺のプランクトン調査を実施



③ 効果検証

プランクトンデータや二枚貝の肥満度を解析し、効果を検証



カキ設置の効果

- ・4年度漁期は、カキ設置直前の降雨（64.5mm）と、設置後の寒波・時化もあり、一部でプランクトンが減少し、全域で栄養塩が回復
- ・5年度漁期は、海域環境の明確な改善は確認できなかった
- ・カキのむき身重量比（むき身重量／全体重量）は、両年度とも増加していることから、プランクトンの除去効果は一定量あったと思料

実施年度	設置期間	設置量 (t)	むき身重量比 (%)	むき身重量 測定日
R4	R5. 1 月下旬～R5. 3 月下旬	20	20 → 24	R5.1.20、 R5.3.17
R5	R5.10月下旬～R6. 3 月下旬	40	15 → 23	R5.10.23、 R5.12.25

- ・佐賀県海域のカキ礁の現存量は約30万トンと推定（佐賀県試算）しており、これに対して今回の投入量はわずかなものであり、海域の環境改善効果は限定的
- ・より効果的なものとするには、漁業者との協働などによる、規模拡大が必要
- ・今回の取組は、漁業者が直接カキの身入りの状況を確認できたことで、珪藻赤潮を減らすためには二枚貝を増やすことが必要であるという考えが定着し、普及・啓発面での効果がみられた